

去年一月某日。一〇〇を超える店舗が軒を連ねる東京・神田西口商店街で、テナント争奪戦が繰り広げ

ビジネスを疑似体験!
新しいスタイルの
研修が人気

られた。同商店街で飲食店を営むA店とB店が空きテナントに二号店を出店しようと計画。それぞれの店主の命を受けた二つのチームがテナント獲得を目指して競い合つたのだ。まずは、どんな店を出店したいのか店主を訪ねてヒアリング。同時に商店街の事務局を訪問したり、住人に話を聞いたりして情報を収集。それらをもとに出店プランを練り上げ、テナントオーナーにプレゼンテーションを行つた。

もつとも、これは現実の話ではない。それぞれの店主の下で奔走した

チームのメンバーは、LPGガス事業を手掛けるENEOSクローバーの若手社員たち。二〇一一年にJX日鉱日石エネルギーのLPGガス事業部門と三井丸紅液化ガスが統合して発足した同社では、入社三年目から五年目の若手社員を対象とする三日間の研修を実施。その二日目に、実際の商店街を舞台に、テナント契約を日指すという体験型研修に臨んだのだ。総務人事部人事グループ担当シニアマネージャーの島村剛史氏は、この研修を導入した理由をこう語る。

「今の若い世代は何事も受け身で、施しました」



第1特集] 宙づり、重り歩行、爆発体験……

「体当たり研修」が効く

座学をメインとしていた研修に新しい動きが起こっている。
疑似体験のできる体感型研修を導入する企業が急増しているのだ。
ユニークな試みを始めた企業の事例から、
その狙いと効果を紹介する

取材・文：國府田晶史
写真：岡田 順、林 孝洋、水野真澄
Text:Masashi Kokufuda
Photo:Akira Okada Keitaku Hayashi Masumi Mizuno Illustrations:Yutango Shirane

